

硬膜外麻酔について

1. 以下の適応で硬膜外麻酔を行います。

適応:無痛分娩(完全な無痛ではありません、和痛と考えて下さい)

妊娠高血圧

疼痛管理

その他()

2. 腰から針を刺し、軟らかいチューブを留置します。定期的あるいは持続的に薬を注入し痛みを和らげます。薬の量やチューブの位置により鎮痛の程度や、鎮痛範囲が異なってきます。一般に下腹部、臀部、下肢の痛みを抑えます。

3. お産で使用するときには痛みのみを和らげ、動くことはできますが下半身に力が入りにくかったり、お産の時に気張りにくいことがあります。したがって、吸引分娩になることもあります。麻酔薬により陣痛も弱くなる傾向があるので分娩時間が延長したり、陣痛促進剤の使用が必要になることもあります。一般には自然陣痛が強くなり、子宮口が4cmを超えてから麻酔を開始します。

4. 誤嚥等を防ぐため麻酔開始後より分娩までは絶飲食になり、点滴を調始します。また膀胱充満感が無くなるので定期的に導尿をします。

5. 合併症として背部痛(30-40%)、低血圧(20%)のほか、術後頭痛(1%)、硬膜外血腫(非常にまれ)、神経障害(非常にまれ)等が現れることがあります。

6. 担当医は充分注意を払い、安全性に努めますが、予測されない危険性や合併症のおこることがあります。(呼吸異常、意識消失等)

直原ウイメンズクリニック

直原廣明

上記の説明を受け了承、納得しましたので、硬膜外麻酔の施行に同意します。

年 月 日 氏名 _____

同席者氏名 _____

